様式３

山形大学
Yamagata University

平成29年度の実績に係る
組織評価ヒアリング

鶴岡キャンパス

鶴岡キャンパス長　林田　光祐

年度目標① 学生へ更なる充実した学びを提供するため，「グローバル」，「地域創生」を充実させた横断的プログラムを設けること等検討を進め，一学科体制を維持したコース再編案を平成31年度実施に向けてまとめる。

達成状況① 農学を取り巻く環境と将来の学問の展開を見据え，現行の一学科体制を維持しつつ，新たな3コース制とともに，３年時には各コースとも，さらに３つのプログラムから選択できる教育体制を平成31年度から導入することを決定し，具体的なカリキュラム編成を進めた。

自己評価（3）

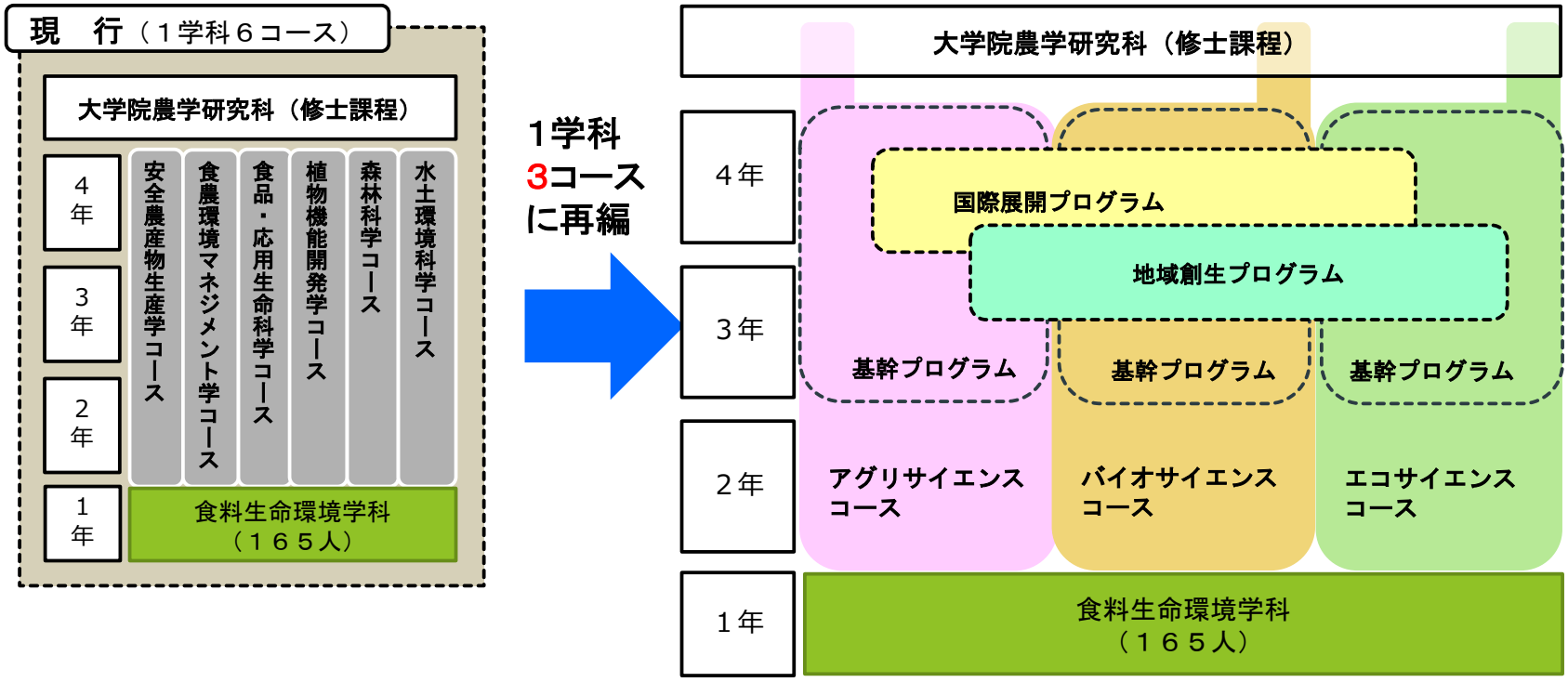
１学科6コース制の8年目

↓ 第３期中期計画に掲げる地域創生や国際化に対応する。
総合力をさらに重視した教育に対応する。

１学科で3コースへ再編　各コースの基幹プログラム＋2横断的プログラム

どのコースでも専門性を活かしたプログラムと総合力を身につける
プログラムを選ぶことが可能

農学部のコース再編計画（平成31年4月～）



●アグリサイエンスコース(上限60人)
安全な農畜産物を持続的かつ安定的に生産するための理論や技術を学ぶ。さらに，限られた資源（物的資源，人的資源）を有効に利用するためのマネジメントについて学ぶ。

●バイオサイエンスコース(上限60人)
植物や，微生物，高等動物など多様な生物を対象とし，これらがもつ生理機能の解明，有用機能の探索・改良など，広範囲の領域を基礎から応用まで学ぶ。

●エコサイエンスコース(上限60人)
農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム，機能を理解し，それらが産み出す恵みを享受しながら，将来に渡り持続可能な形で管理，保全するための理論や技術を学ぶ。

3年進級時に3プログラムの中からプログラムを選択（各コース共通）

基幹プログラム
アグリ，バイオ，エコの各コースについて，それぞれの課題を解決するための理論や技術を学び，サイエンスを指向する。

国際展開プログラム
語学力向上と，外国人留学生との交流を含めた演習，海外実習などを学び，グローバル化の進む日本社会の課題を解決するための国際的感覚を身につける。

地域創生プログラム
食や農を核とした地域振興のニーズにこたえるべく，地域の活性化とその好循環の維持の実現するための地域社会をマネジメントする方法を学ぶ。

年度目標②　「グローバル人材育成事業」を活用して，海外の協定校との交流学生の受入・派遣ともに30名以上を目指す。

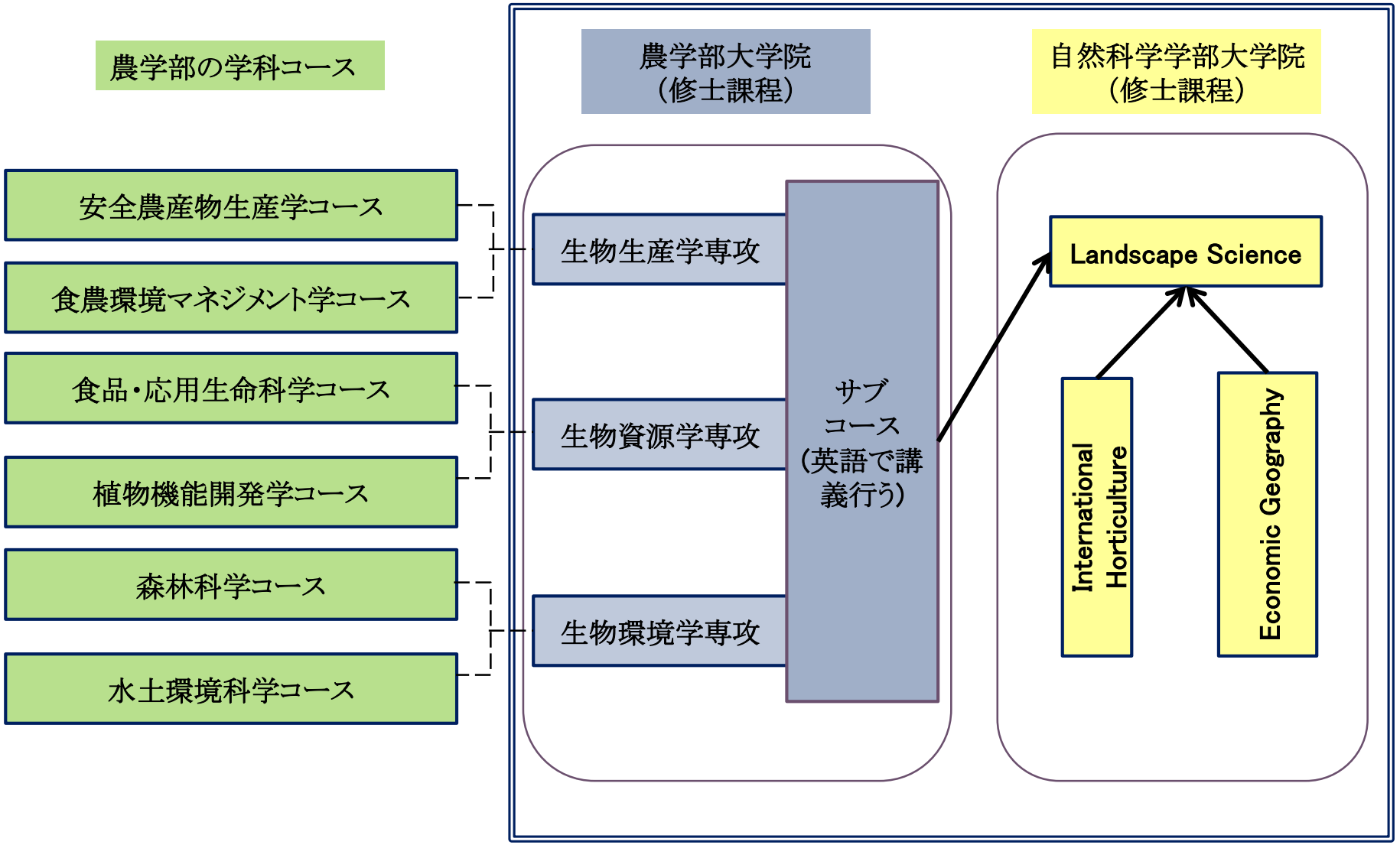
達成状況②　概算要求事項である「食－農－環境連携を担うグローバル人材育成事業」等を活用し，サマースクール等，5か国・6大学との間で，延べ84名の学生の派遣及び受入を実施した。（農学部学生派遣：41名，学生受け入れ：43名）
さらに，ハノーヴァー大学（ドイツ）との年3回の協議により，修士課程の複数学位制度の検討を平成31年度の実施に向けて進めた。

自己評価（4）

- 派遣　41名　　ドイツ　12名、 タイ　8名、 ベトナム　13名、
  農学部生の4名に1名は海外へ　　インドネシア　8名
- 受入　43名　　ドイツ 16名、 中国　2名、 モンゴル　5名
  ベトナム　5名、 インドネシア　15名

JASSO海外留学支援制度、 さくらサイエンス事業
寄附講座「アジアの水・食・健康リスク講座」

ドイツ・ハノーヴァー大学との複数学位制度（ダブル・ディグリー）の締結へ



年度目標③　６次産業，ワイン製造をキーワードにした学部横断・分野横断型研究を２件以上立ち上げる。加えて，２つの寄附講座を主とする外部資金による研究をさらに推進し，山形大学ブランドの農畜産物の販売や社会貢献事業を積極的に展開する。

達成状況③　「６次産業」関連では，ドライフルーツを中心とした果実の６次産業研究拠点形成に向けて，学際的な研究に取り組んだ。「ワイン」関連では，ワインプロジェクトを立ち上げるとともに，ワインコンソーシアムの構築に向けて，山形県やワイン酒造組合等の関係機関と積極的に情報交換を行った。「６次産業」プロジェクトを含めてYU-COE（C）が２件採択され，分野横断型研究を推進した。

寄附講座「アジアの水・食・健康リスク講座」を本年度から開始した。また寄附講座「スマートテロワール」については地元スーパー（主婦の店，トー屋）において山形大学ブランドのハム・ソーセージ・ベーコンのスポット販売を開始するとともに，11月28日に収穫感謝祭を開催して社会貢献事業も積極的に推進した。

自己評価（3）

6次産業化を核とする「食」の学際的研究拠点

背景

21世紀に入り，消費者の「食」に対する関心が高まる中，「食」は成長産業として期待されている。また，わが国の農林水産政策においては，六次産業化法（※1）の施行をはじめとして「攻めの農林水産業」の展開に向けた，様々な施策が進められている。山形県においても，やまがた総合戦略において，地域の多様な資源を活用した「食産業王国やまがた」の実現を目指している。

※1：地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律

目的

山形大学の総合大学としての強みに，山形県の農業総合研究センターや工業技術センターが培ってきた技術を融合することにより，加工，醸造，流通，安全，食育といった複合領域で学際的に取り組み，川上から川下までの「食」の研究拠点形成を目指す。さらに，山形大学やまがたフィールド科学センターに山形県の普及機関が連携協力するエクステンション機能を有するセントラル農場を設置し，「食」の普及拠点を形成し，地域の人材育成の拠点づくりを目指す。

農工連携を核にした「食」の研究拠点

食料生産



山形大学
農学部・理学部
山形県
農業総合研究センター
森林研究研修センター

・センシング技術
ビッグデータ解析
・鳥獣害対策



もがみワインバレー

おいしい山形推進機構事務局ホームページより引用

食品加工





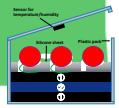
山形大学
農学部・工学部
山形県
農業総合研究センター
工業技術センター

・６次産業
ドライフルーツ
もがみワインバレー構想
・先端フード
デンプンのアルファ化
技術

食品流通，消費

山形大学
農学部・工学部・地域教育文化学部
山形県
農業総合研究センター
工業技術センター

・新型鮮度保持パッケージ
・センサータグ
・食の安全
・食のリテラシー





「食」の普及拠点

山形大学
やまがたフィールド科学センター

農業総資本，技術水準，付加価値の３つ
指標を高めるためのモデル農場化

山形県総合支庁
農業技術普及課

連携
協力

山形大学
セントラル農場

連携

鶴岡市
地域定住農業者育成者
コンソーシアム

連携

食料自給圏形成講座

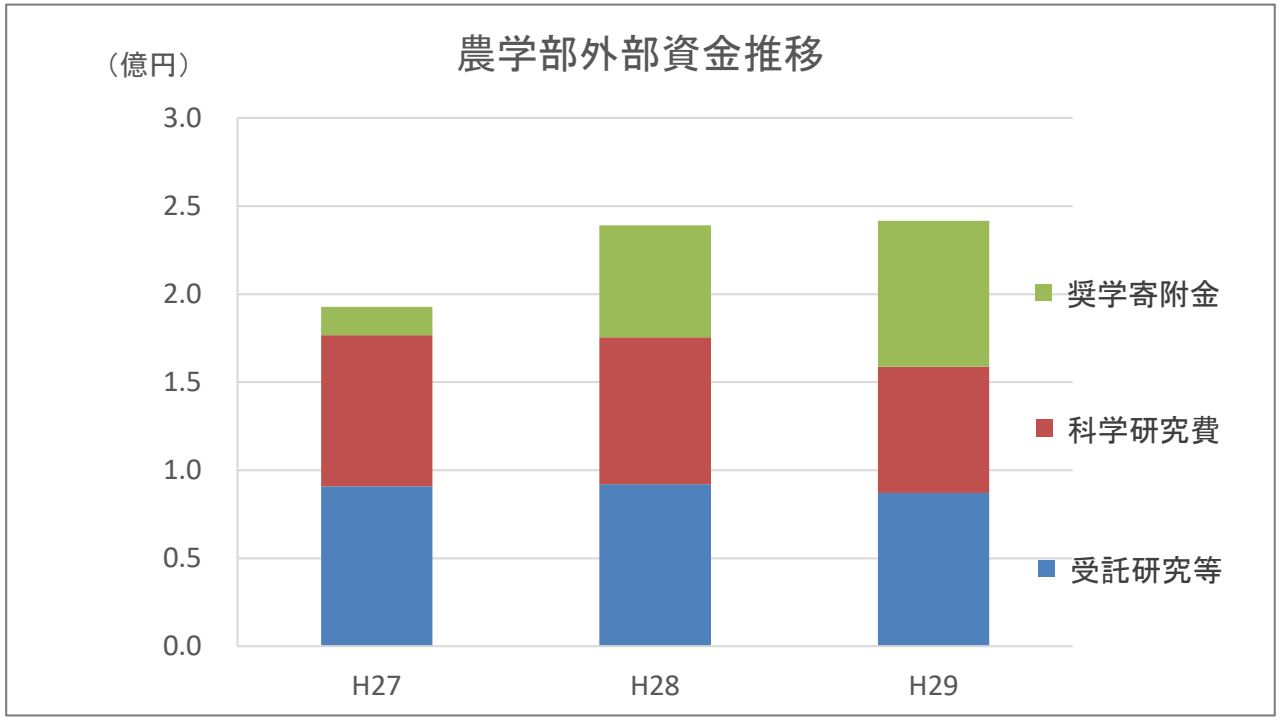
スマートテロワール
日本の明日の農村

- ◆「食」の学際的研究・普及拠点形成
- ◆ 6次産業モデルの世界的展開
- ◆ 山形発フードビジネスイノベーションの創出
- ◆ 研究成果を教育効果にも波及させ，研究科等の設置
- ◆ 地域の人材育成の拠点形成

山形大学
Yamagata University

二つの寄附講座により、奨学寄附金が増加

食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座
アジアの水・食・健康リスク講座



食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座

耕畜連携・農工連携モデルに関する実証研究を農場で実施


バレイショ


ダイズ





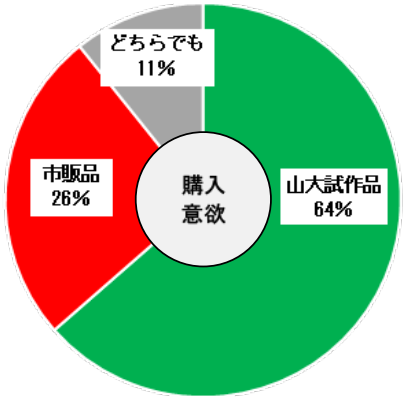
規格外・余剰農産物による豚の肥育
地元の東北ハム（株）でハム・ソーセージに加工

スマートテロワール
日本の明日の農村

山形大学ブランドの製品の試食販売

地元（鶴岡市と酒田市）のスーパーで
常時販売へ





年度目標④　HPを全面リニューアルし，Facebookでの情報発信を月10回以上行い，記者懇談会を年3回以上開催することでより広く情報発信を行う。

達成状況④　農学部HP全面リニューアル，月平均17回のFacebookによる情報発信，年3回の記者懇談会の実施により，社会に対して積極的に情報発信を行った。

自己評価（3）





山形大学
Yamagata University